

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前に全職員で理念を作成し、施設玄関とリビング内に掲示している。リビングの分かり易い処に掲示することで常に職員が意識できるように、また来られたご家族様から見て頂きやすいように配慮している。	開設時に職員全体で作上げた理念を玄関、リビング内に掲示しており、家族、来所者の方にもわかりやすいものとなっている。職員は理念をもとに利用者一人ひとりに丁寧な対応を心がけ、家庭的な雰囲気の中でケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の祭りや運動会、行事【海まつ】に参加して交流している。老人会の方が来られ一緒に輪投げを楽しんだ後茶話会を行い同年代の方々との交流も図っている。また、中学校の職場体験活動の受け入れを行っている。	町内の行事参加や老人会の方との茶話会など、地域との触れ合いを大切にしている。また中学校の職場体験活動を受け入れるなど、事業所を福祉教育の場として提供し地域との繋がりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回広報誌を発行し、認知症の方の暮らしぶりを地域の方々へ紹介している。認知症についての理解を得るまでの広報活動までには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に利用者・ご家族・地域の方々・地域包括支援センター職員の方々から参加にて運営推進会議を開催している。事業所からの報告の後、意見や助言を頂き、再度スタッフ会議にて報告話し合いサービスの向上に繋げている。	運営推進会議は地域包括支援センター、職員、町内会長、民生委員、老人会をメンバーに利用者、家族の参加を得て、意見、要望など情報交換が行なわれている。協議された内容、経過を事業所のスタッフ会議で話し合いサービス向上に努めている。	関係機関との連携面では運営推進会議も定着されているが、会議内容や検討事項等を出席されなかった家族にも報告するとともに、情報をいただくことで運営に反映させていくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平成25年度は毎回運営推進会議に市の担当者が参加していたが、今年度は参加出来ないとの報告を頂いている。会議の報告をしている。	主に地域包括支援センター職員との連携は築かれている。現在参加のない市町村担当者には会議録にて情報を報告し連携を図っている。	市町村と事業所との関わりは現場や利用者の課題解決のためにも大切である。今後も積極的に市町村から理解や支援など協力をいただきながら、会議後の助言や情報の共有化を図っていくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての学習会を行い、知識を得ている。拘束に繋がらないよう玄関を施錠しない事も含めて取り組んでいる。	身体拘束は行なわない共通認識のもと、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は施錠しておらず、デイルームでも利用者の立場に立った声がけで認識し合っている。身体拘束、虐待防止の「防止研修アンケート」を作成し、混乱等の対応法に活かすなど職員全員の意思統一がなされている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待についての研修会に全職員が出席し知識を得ている。心理的虐待について学び、自らの介護について各自目標を立て毎日振り返りを実施した。	虐待、身体拘束と同じく事業所独自で作成したアンケートを全職員で認識し、各自で掲げた高齢者虐待防止法に関する理解の浸透や遵守に向けた実践に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や計画作成担当者は理解しているが、全職員には学ぶ機会がない。成年後見制度は適宜かつようしており、2名が利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時は不明な点や疑問点がないか丁寧にお尋ねしながら十分な説明を行っている。今年度初め食材料費の値上げについて説明、了解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置しているがそこへの意見は頂けていない。ケアプランのカンファレンス時に意見を頂いたり、面会に来て頂いた時にご本人の様子をお伝えしながらご意見を頂きやすいような雰囲気づくりに努めている。	家族には毎月のお便りと写真を入れ状況等を報告している。面会等やカンファレンスを通じ行事参加の働きかけや家族から意見をいただき運営に活かしながら、関係を途切れさせない努力がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や正職員に対しては人事考課の面接時に意見や提案が出来るようにしている。臨時職員へも面接時に意見を反映する機会を設けている。	毎月のスタッフ会議開催や人事考課の活用等、半年に1回振り返りを行なうなど、管理者の意見を押し付けずに、常に職員の意見要望や提案を聞く機会を設けるなど、良好な運営体制が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の機会に上司との面接の機会があり、日々の業務について話し合いの場がある。また、課題や今後の目標も含めて忌憚なく話が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課の機会に話し合いの機会を得ている。法人内の研修は定期的に行われており、法人外の研修にも機会の提供を受け積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に地域未着型事業所が5事業所あり、毎月管理者が会議にて意見交換や課題解決に取り組んでいる。研修も定期的に行われ、質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能であれば、施設を見学に来て頂き意向や要望をお聞きしご本人にとって安心に繋がる暮らしができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階でご家族がどんな事に困って施設利用の意向でおられるのかを確認している。また、事前に必ずご家族と面談し、ご本人の暮らしぶりを含めて要望をお聞きしながら関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設利用開始に当たって、ご本人の力を見極めながらご本人が出来る事はして頂き、出来ない事や困っておられる事にさりげなく支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活を共にしているため、家事作業（食事づくり・掃除・洗濯たみ・畑作業等）職員と一緒にしている。常にご本人に意向を確認しながらより良い関係が築けるように配慮している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご本人の暮らしぶりをご家族に担当者のコメントを添えて報告している。機会をみて行事にも参加して頂くようお誘いしている。職員だけでなく、ご家族と共にご本人を協働で支えていくべく情報発信に努めている。	遠方の家族には毎月お便りで本人の生活状況報告と施設行事の案内を送付することで情報を提供している。過剰なサービスにならないよう家族、事業所で情報の共有にも努めている。また温泉旅行を楽しまれるなど、ともに本人を支えて行く関係性を築いていこうと努力している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族を含め、友人や知人との交流が保てるように配慮している。電話も長時間でなければ可能な範囲で掛けて頂いている。馴染みの店や美容院へ出掛けている。	今までの生活習慣を尊重して、地域行事への参加や友人、知人との交流、馴染みの商店での買物、美容院へ行くなど、今迄の地域との関係が途切れさせないための継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関係づくりが出来るよう、同じ出身地のユニットになるよう考慮していることで会話の活性化に繋げている。より良い関係が保てるよう食席にも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所された後は、特に施設として積極的に関わりを持っていない。次の施設へ移行される際はスムーズに利用が繋がるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から、ご本人の意向を押し量るよう関わっている。また、ケアプランについての話し合いの場でご家族の意向を確認している。常にご本人の立場に立った関わりが出来るように話し合いの機会を設けている。	本人の希望・意向を把握するため、ケアプランについての話し合いの場を設け、本人を中心に家族と話し合っている。また、把握が困難な場合には、家族や関係者から得た情報の中から本人の立場や想いを推察し、日常生活に最もふさわしい方法を検討している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴や今迄の暮らし方についてご家族やご本人にお聞きし、馴染んだ暮らしが継続できるように努めている。また、自室の環境が馴染んだ環境となるよう居室担当者が中心となって衛生面や安全面に配慮しながら努めている。	入所以前の生活歴や日々の生活の中から本人の行動や思いを重ねつつ、家族を含めて話し合いの場を設け情報を共有している。職員は本人が居室に馴染み安心した暮らしが継続できるよう、環境の整備に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者を中心にユニット全職員が利用者お一人お一人の力を把握するように日々の暮らし方も含めて毎月のユニット会議にて検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議にてご本人が暮らしやすいように過ごしていただくにはどうしたら良いのかを中心に課題や関わりについて検討している。介護計画にそって毎月モニタリングを実施。計画に見直しに繋げている。	毎月、ユニット会議において、本人のために最も必要なことは何かを重点的に検討を重ねモニタリングを実施している。日々の経過記録も詳細に記されており、介護計画の見直しも定期的実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	PCのシステムにて個別記録を記入し、ユニットだけでなく全職員が共有し実践に活かしている。個人記録からモニタリングに繋げ、ケアプランに見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護職員と計画作成者のみの事業所であるため、多機能な支援に繋がっていない現状がある。本部の看護師や栄養士、作業療法士から助言を頂き、より良い暮らしに繋げるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容所へ出向いたり、地域行事に参加し交流を図っている。また、今年度は老人会の方々を招き輪投げ大会を行った後に茶話会にて交流している。近くの中学校とは職場体験やボランティア等を通して交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に受診についてのご家族の意向の確認をしている。協力病院と認知症に関する情報交換をしながら関係づくりが出来ている。また、隣接の内科クリニックとの情報共有ができており、ご本人にとって適切な医療に繋がっている。	かかりつけ医が事業所の協力病院の場合は受診に同行しているが、入所前のかかりつけ医を継続希望の方は家族にお願いしている。なお、緊急時の受診や相談、助言に関しては隣接する内科クリニックで即時対応を行っており、適切な受診支援に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には看護職が居ないため、グループ本部の看護師長と連絡をとりながら、適切な受診に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院するにあたっては、適切な治療が出来るように配慮している。隣接の内科クリニックや協力病院と関係性が保っているため、スムーズな治療に繋がっていると考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の方針にて終末期の対応は行っていない。入所時の契約時にご家族に説明し、了解を頂いている。次の施設に移行するまでの間、事業所として出来る事をお伝えしながら、スムーズな移行に繋げている。	終末期の対応は法人の方針で行っていないことを入居時に説明し同意を得ているが、高齢期に伴う状態の悪化や急変時には柔軟に対応をしている。また、本人の生活面や身体面を見極めたうえで、支障が生じた場合は今後の方向性について相談に応じている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、応急処置の講習会に全職員が参加し、基本的な対応についての知識や実践力を身に付けている。また、グループ内本部の事故予防の研修会に職員が参加し、他職員への情報共有に繋げている。職員間で差があるため、今後も定期的な取り組みが必要。	全職員が応急処置講習会に参加し基本的な知識や実践力を身に付けている。また、職員が外部研修に参加した場合は伝達研修を逐次開催し、全職員間で情報の共有に努めている。急変時の対応もマニュアル化されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中は職員が複数居るが、夜間は1ユニット1名夜勤体制であり、夜間想定避難訓練を実施。また、町内の方々と一緒に避難訓練を年1回行っている。市からの防災ラジオにて情報も得ている。	様々な場面を想定した訓練を定期的に行い、全職員が円滑に避難対応できるよう取り組んでいる。特に夜間は職員に限られているため、地域の方々の協力を得た実践的な訓練に努めている。また、食糧や飲料水等の備蓄もされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊厳を持って接するように心掛けている。心理的虐待の研修に職員が参加し、その人の立場に立った言葉掛けを含めた関わりができるように各自目標をたてて振り返りを行った。	職員は常に利用者は人生の先輩として敬意を払って対応している。尊厳に対する取り組みとして、心理的虐待防止の研修に参加し、相手方の立場を理解した声かけを含めた関わりが出来るよう各自が目標を掲げて取り組むとともに振り返りも実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶時や作業時等、一人ひとりに言葉掛けをし、その方の意向を確認したり表出しやすいような言葉掛けに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者お一人おひとりのペースで過ごして頂けるように希望に沿った暮らしに繋がられるよう配慮しているが、共同生活であるため、他の方に合わせたり、職員サイドの関わりがみられている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に一日の着たい服を選んで頂いたり、好みを聞いたりしている。髪形もご本人にお聞きし、理容所や美容院へ出向いている。毛染めもご本人の意向を確認して行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みをお聞きしたり、季節に相応しい献立となるようにしている。一緒に野菜の皮むきや調理作業や盛り付け、配膳も含めて利用者と一緒にしている。食器洗いや食器拭き、テーブル拭きも含めて一緒にしている。	献立は利用者の希望に添いながら季節にふさわしい料理を提供している。管理栄養士の点検も行われており、栄養面への配慮もなされている。利用者は、当番制でテーブル拭きや配膳など、出来ることを職員とともにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関してはグループ本部の栄養士へ毎月報告し、助言を得ている。お一人おひとりに合った食事量を提供している。特に夏季は水分量が不足しないよう確保に努めている。摂取不足の方には嗜好を活かした飲料に変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを実施している・用具の準備や声掛けの実施。必要な方には見守りや適切な介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを確認し日中夜間、介助が必要な方には適宜誘導や介助を行っている。ご本人に合ったものを確認しながら使用して頂いている。	排泄チェック表の活用により個々の習慣や排泄パターンを把握し、トイレ誘導も円滑に行われている。利用者の状態やその場の状況に合わせ、排泄用品を使い分けるなど、自立に向けた働き掛けが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に注意しながら提供している。牛乳や時には冷水を提供する時もある。また、適度な運動の機会を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後の午睡明けから夕食前の時間帯に入浴して頂いている。ご本人の体調に配慮しながら1日おきの入浴となっている。一人ひとりに合ったゆっくりとした入浴となるよう努めている。爪切りや耳掃除を行い、歌の好きな方は浴槽内で歌を唄って楽しめる方もおられる。	基本的には一日おきの午後日浴を行っているが、毎日入浴される方もいるので、利用者の希望に応じて柔軟に対応している。歌を唄いながらリラックスしている方や爪切り、耳掃除などの清潔保持にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活パターンに応じて活動の時間と休息する時とメリハリのある生活が送れる様に支援している。また、安眠につながるように室温や寝具、衣服の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どなたが何の薬を内服し、既往歴や現在の疾病についてわかるように一覧表にして職員全員が把握している。内服薬に変更があった場合等は記録のシステムと一覧表にて確認を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おひとりお一人の力や今までの暮らしぶりを活かして日々の中で家事作業や手先の作業、レクレーションの時間の楽しみごとを取り入れている。張り合いや生き甲斐に繋がる暮らしとなるよう取り組んでいるが、よりその方に合った支援に繋がっていきたいと考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、食材の買い物や美容院へ出掛けたり、地域の行事に参加している。受診の際もご家族の協力を得ている。歩行困難な方の外出は日常的に困難となっており、月1回は皆で季節に応じた外出行事を提供しており、楽しんでいる。	外出支援は地域の行事への参加をはじめ、食材の買い物、行きつけの理美容院へのお出かけなど、本人のライフスタイルに合わせた支援を行っている。歩行が困難な方にも楽しんでもらえるよう、四季折々のハイキングを計画しバスでの参加を促している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針にて基本的にお金を持っていたいではない。立て替え払いとなっている。行事にて外出した時等に好きな物や欲しい物を購入して頂く場を提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をして頂き、友人との交流を勧め手紙のやり取りの支援もしているが一部の方に留まっている。年賀状を契機として可能な利用者に広めていけたら良いのではないかと考えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節が分かるようにカレンダーを工夫している。利用者と一緒に清掃を行い清潔が保たれるように努めている。冬期間以外は縁側を解放して中庭が見え、天気や畑の作物や木の様子が感じられるようにしている。	リビングは天井の梁が見える仕様で、高さもあって、広く圧迫感のない空間になっている。越後ブランドの杉材に囲まれた居心地のよいアットホームな環境となっている。和やかに談笑する利用者の様子が印象的である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに座席は利用者間の関係性を考慮して配席している。気の合った方同志がソファにてテレビを見ながらゆったりと過ごされている。また、自室は個室となっており一人で思うように過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた馴染みの物を持って来ていただくよう契約時にご家族に伝えているが、ご家族間で差があり、施設側も担当者を中心とし働きかけを今後も継続していきたいと考えている。	居室にはタンスとベッド、クローゼットが備え付けてあり、それぞれ使い勝手を考慮して配置されている。自宅からは本人の使い慣れた寝具や小物等の備品が持ち込まれており、きちんと整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、浴室、トイレ、共有スペースに手摺が取り付けてあり、ご本人が安全にご自分のペースで動けるような造りとなっている。また、自室内でも転倒を防ぐ事が出来るよう室内環境をベッドやタンスの位置を含め検討している。		